

6. 戦争の時代

前回まで戦前の公会堂をご紹介してきましたが、その後 1937 年(昭和 12 年)に日中戦争が、またその 4 年後には太平洋戦争が始まり、公会堂での催しも戦時色を強めていきました。

戦局報告会や時局演説会、戦意高揚の映画上映会、軍需工場の従業員と家族の慰安会などが増えていきました。

さらに 1941 年(昭和 16 年)8 月には名古屋防空隊(後に高射砲隊)司令部が公会堂に置かれ、連隊長室・将校団室・兵室・作戦室などが 4 階全てを占めました。屋上は戦闘指揮所となり、高射機関砲と機関銃が設置され、また鶴舞公園のグラウンドには高射砲 4 門が配備されました。



1945 年(昭和 20 年)に入ると本土空襲が激しさを増したため、鶴舞図書館は貴重な蔵書を疎開させることにし、3 月 17 日にその一部一万冊を公会堂の地下食堂に移しました。

そのわずか 2 日後に名古屋大空襲があり、図書館は焼夷弾の直撃を受け建物の大半と図書を焼失してしまいます。公会堂に預けた貴重図書は無事でした。その後も空襲は激しく続き、ついに 5 月 14 日には名古屋城が焼け落ちました。

焦土と化した市内で幸いにも公会堂は被災を免れ、焼け出された多くの住民が避難してきたため、公会堂としての機能は停止しました。